

第3回 瑞穂町自立支援協議会 会議録（要点筆記）

日程：令和4年2月15日（火）

時間：午後2時から午後3時まで

場所：瑞穂町役場 2階 2-1会議室

出席者：杉浦会長、神副会長、隅河内委員、堀之内委員、戸村委員、小山委員、谷口委員、笠川委員、石藏委員、西出委員 10名

欠席者：宮岡委員、野口委員、吉岡委員、稲富委員

配布資料

- ①会議次第（A4 1枚）
- ②各部会からの報告（A4 1枚）
- ③相談支援事業所比較表（A3 1枚）
- ④障害者庁内実習事業（A4 1枚）
- ⑤近隣市の就労部会活動内容について（A4 1枚）
- ⑥近隣市の障害者雇用について（A4 1枚）
- ⑦R3年度就労部会資料（神先生提供）（A4 1枚）
- ⑧第2回会議録（要点筆記）

1 開会

課長挨拶

2 議題

- （1）各部会からの報告
- （2）その他

生活部会報告（資料②③）

・町内の相談支援事業所が集まり、各事業所で課題になっていることや困りごとなど情報交換ができ有効だった。共通の課題はそれぞれが担当している件数が多く新規の受け付けが難しいこと。

・来年度の部会について、相談支援事業所が集まって生活部会としたい。また、事業所担当ではない委員からも意見をいただきたい。

・全国的に相談支援事業所が少ない現状ではある。生活部会を情報交換の場として活かしていきたい。

就労部会報告（資料②～⑦）

- ・庁内実習について報告、実習を受ける方の配慮事項の確認の機会を設けるとよい、常時受け入れ可能な体制を整えてほしいとの意見あり。
- ・今後の就労部会について、今後の運営内容について事業所が参考となるような施設見学の実施を検討する。
- ・羽村特別支援学校在校生で瑞穂町在住の生徒進路状況について
- ・強度行動障害がある方の進路や日中活動の場が少ない、事業所の開設相談があった場合は強度行動障害がある方でも受け入れ可能な施設を優先的に誘致したい。

質問・その他意見

・生活部会の資料を見て現在の相談支援の難しさが反映されており現状の理解ができた。専門員の常勤配置について報酬単価の問題もありひっ迫しているのはわかるが、基幹相談支援センターの設置も望まれている。一か所の事業所で課題解決できるものでもない、みんなで協力していくべき。町としても計画に含まれているので、この話を生活部会で議論するのか、親会なのかどうしていくのかすみ分けが必要と感じる。

・生活部会に相談支援事業所が入っている中で、それぞれ抱えているケースの課題が今後部会の課題として出てくると思う、次年度に取り組む案件として考えているのか。

→具体的には次年度考えていく。

・グループホームが足りないと感じている、事業所が検討していると聞くが物件が見つからず苦勞しているようである。

・グループホームに利用できる物件を持つオーナーの方たちに障害福祉サービスへの理解を深めてもらうため、啓発を行うことも必要。

・グループホームについては、アパートやマンションを建設するよりも低リスクであるため、土地活用としてグループホームを建てている自治体もある。

・日中活動をグループホーム内で行っているところもある。

・相談支援専門員が少ないのは全国的な課題。

・基幹相談支援センターの動向が前回計画を作った時と変化している。障害者だけでなく、包括的に支援できる全世代型等の体制が望ましい現状になってきている。ただ基幹相談支援センターを作ったからと言って課題解決とはならない、相談支援事業所の課題もある。

・サービスについては行政規模を考えれば、全てのサービスを町内に作るのではなく、町外にある物を上手く活用できるように送迎の助成や仕組み等を工夫することが必要。

・庁内実習は着実に成果をあげている、仕事の切り出しや配慮事項を事前に聞

くことはセルフプランに繋がる。これからもPRしてほしい。

- ・障がい者が常時できる作業として、庁内の清掃などが考えられる。業者選定の際に障害者雇用や実習の受け入れも記載しておくといった工夫もある。

事務局

- ・地域保健福祉計画というものがあり、その中で町内2か所に包括的なセンターを置くことを目標として掲げている。他自治体との連携も考えている。

- ・等級も変更になったこともありグループホーム設置の相談も来ている。ただ立地の問題もあり難しい現状もあるが、これからもバックアップしたい。

- ・来年度の就労部会について、わーくあっぷ瑞穂（B型・生活介護）の担当者にもご参加いただく。

- ・以前の会議で議事録公開について提起されているため、委員に内容を確認していただいた後、町のホームページに掲載したい。